

高野山社会福祉だより

第33号

ふれあい



目次

● 令和5年 台風2号災害ボランティアの記録	2	● 令和5年度 高野山心の学び講座	10
● 福祉活動団体および福祉事業への支援	4	● こころの便り事業	10
すべての命によりそって—シニアトレーニングさくらの社	4	● ごあいさつ	11
ぞうきん会—南福寺	5	● 御宝号念誦運動のお願い	12
地域で実践するグリーンケア—大慈学苑	6	● 御宝号念誦運動寄金推移表	12
● 高野山真言宗第3回 平和研修会	8	● 福祉基金事業表	12
● 令和5年度 密教福祉研修会開催	9		

令和五年 台風二号

災害ボランティアの記録

瑞應山 満福寺 住職

高野山真言宗 和歌山青年教師会会長

防災士

伊南 和真

令和五年(二〇二三年)六月二日(金)

から三日(土)にかけて台風二号が紀伊半島に接近し、和歌山県北部に甚大な被害をもたらしました。なかでも私が住まいする和歌山県海草郡紀美野町ではこの豪雨により河川の氾濫、土砂崩れ、倒木、道路の崩壊、住宅への床上床下浸水など様々な被害をもたらし、二名の方が氾濫した川に流され、お亡くなりになりました。

また、隣接する海南市でも日方川と亀川が氾濫し約一〇〇〇軒にのぼる住宅が床上床下浸水の被害に遭われました。事前にこの台風二号でこれほどの被災予想などは出ておらず、線状降水帯の恐ろしさを世に知らしめる結果となりました。



河川氾濫による道路の崩壊

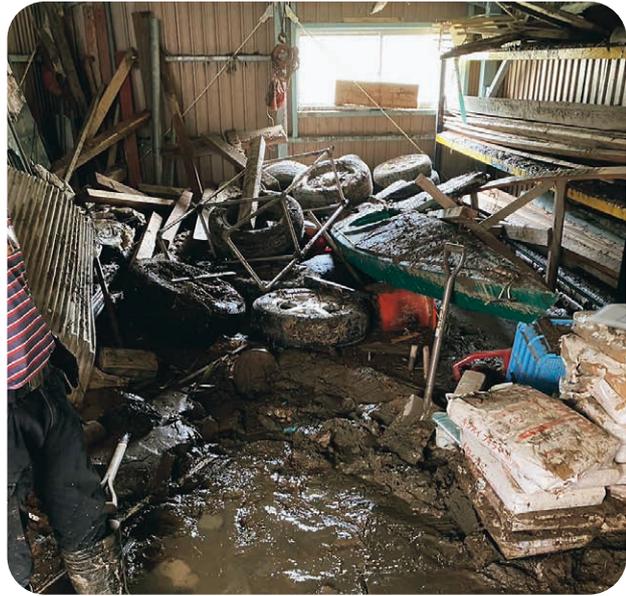
紀美野町では被災後すぐに災害対策本部が設置され、災害ボランティアの募集が始まりました。私は今年の四月

より高野山真言宗 和歌山青年教師会の会長の任を拝命しており、青年会員の皆様に災害ボランティアのお手伝いを頂こうかとも検討致しましたが、被災地域が県全域に及ぶ為、紀美野町だけに支援活動を行うことは適切ではないと判断し、各個人が積極的に出来る範囲での支援活動を行って頂けるように指示を致しました。

そうした経緯から私は個人的に紀美野町の災害ボランティアに参加しましたが、想像以上の被害状況に言葉を失いました。私が派遣された先は紀美野町を流れる貴志川の岸に三軒連なり建つお宅で、住人の方は「あつという間に水が流れてきて、胸の上あたりまで浸かった」とお話をされました。

家の塀は押し流され、屋内でも電化製品や畳、フローリングに至るまで壊滅的な状態でした。床下は泥で埋まり、地下一階の十メートル四方程の倉庫は天井まで水に浸かり、原付バイクや、カヌーや自転車、タイヤ、仕事で使うセメントや木材などの資材が泥の中に埋まっていました。その家財道具一式

と、泥の掻き出し作業が必要な状況でした。



その一軒に男性が八人がかりで作業し丸一日掛かって、ようやく倉庫の物を全部出し、泥を洗い流すことが出来ました。掻き出した泥を入れたごみ袋は水分を含んだ泥の塊で三十キロほどの重量になります。そのごみ袋が三〇〇袋以上もあり、それを一つ一つ地上に持ち上げなければならず、終盤には完全に腕に力が入らなくなりました。そうして夕方の作業終了時刻になっても倉庫から出した物は家の空き

地にうず高く積み上げられたままで、一朝一夕ではとても日常生活に戻ることは出来ない悲惨な状況でした。



私がこの災害ボランティアに参加して気付いたことは、水害に遭った被災地においては何よりも復旧作業の人手が圧倒的に不足しているということです。今回は関西大学ラグビー部の皆さ

まや、近畿大学生物理工学部の大学生をはじめ県内外からも沢山の方々から災害ボランティアに駆けつけて下さいました。皆さまのご協力のおかげさまで一定の復旧の目処が立ちました。本当にありがとうございます。しかし、まだまだご不便な生活を余儀なくされておられる方も大勢いらっしゃると思います。被害に遭われた方の、一日も早い再建を衷心よりお見舞い申し上げます。



福祉活動団体および

福祉事業への支援

すべての命によりそって

富山型デイサービス城山

シニアトレーニングさくらの杜 和多 俊明

に寄り添って
力を合わせて
いました、そ
の子達も社会
人として巣立

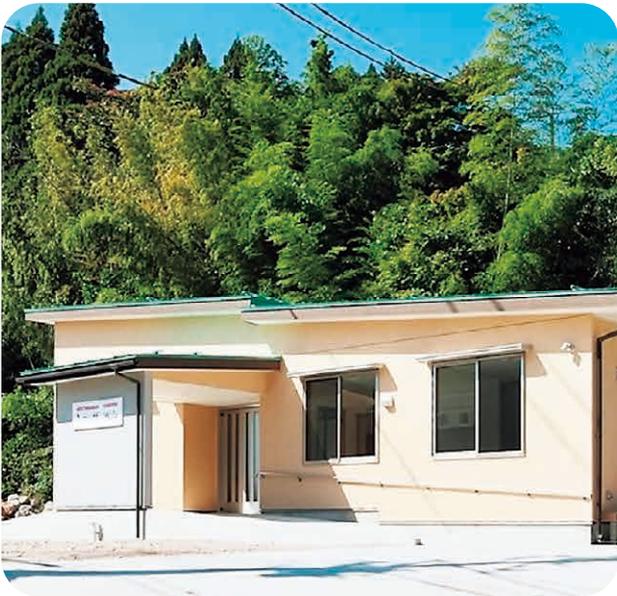


濟生利人「すべての命によりそって」を理念として、「富山型デイサービス城山」（定員一〇名）を開設したのは、平成二十七年四月十六日でした。

ちましたことは施設の誇りです。

拙僧が師と仰ぐ亀山弘応大僧正、第

寺院の庫裡を一部改築して始動した小さな施設でした、富山型デイサービスは高齢者も健常者も障害の持ったお方でも一緒に暮らしましょうという思いから、同じ施設で利用できるサービスです。富山県で始まり、惣万加代子さんが行政を動かして活動されたサービスです。障害のある子供も日中一時支援としてお預かりして、お年寄りと一緒に楽しく施設で過ごして、お互い



四〇四世管長猊下が、京都において戦後まもなく引揚者や戦争で怪我を負われた方や身寄りのない方と共に生活して福祉事業の活動（現、社会福祉法人嵐山寮）をされた事を、修行僧の頃より直にお聞きしており、いつかは同じ志を実現したいと考えておりました。

最初の施設で七年の活動の後に、高齢者がいつまでも元気で家族と共に生活するには、健康管理、体力維持、フレイルの維持改善の必要性を感じ、新施設（定員十八名）を開業してその場所にシニアトレーニング「さくらの杜」として機器を揃えて、活動を始めましたのが令和四年十月です。日曜日には一日施設を無料開放して、要支援、要介護の認定の必要のない、一般の元気なシニアの方達に機器を利用して、いつまでも生き生きと過ごしていただくよう取り組んでいます。老人は引きこもりがちになる為に、少しでも社会と関わって、笑って、コミュニケーションの場所になればと思いい施設を提供しています。

利用者様の声として「大人数の施設



は苦手だけど、ここは少人数で職員も優しく楽しいわ。」(九十五歳女性一人暮らし)とのお声が届いており嬉しく思います。利用者様には入浴等の介護サービスの提供とフレイル改善、維持に特化した施設として、小矢部市城山公園内で桜と紅葉の名所であり、環境良好の場所にて一日を楽しく過ごして頂いております。

南福寺「ぞうきん会」

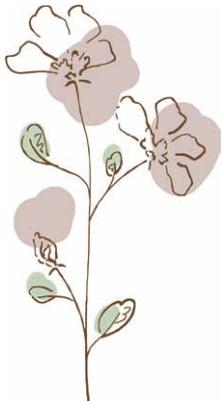
南福寺 住職

渡邊 弘 敦

ようにお唱え
している個所
がわかる様式
をDVDとか
ユーチューブ

ぞうきん会は、ぞうきんの里親として養護施設にぞうきんをお供えしている会です。その中で、聴覚視覚障がい児入所施設「新開学園」「生明学園」の存在を知りました。そして、拙寺檀家にも卒業生がいることがわかり、聴覚障がい者さんにとっての葬式、法事の在り方に疑問が起きました。そこで、この度、高野山真言宗福祉活動助成事業として聴覚障がい者、難聴者への「ともに唱える在家勤行次第」を作成することができ大変感謝いたします。この度の事業は、聴覚障がい者ご夫妻のリスニングを通して、作成させて頂きました。そもそも、聴覚障がい者にとって、法事・葬式は全く縁のないものと感じていらっしやいました。在家勤行次第を手にとっていてもどこを唱えているのかわからないのです。そこで、ともに勤行できるように、カラオケの

配信する案ができました。さらに聴覚障がいには、様々な症状があることもわかりました。音が全く聞こえない方、音が雑音として聞こえる方など様々でした。これより今回は、無音の画像、情報過多にならないよう文字のみで背景なし、文字列は一行のみとしました。この方法で実際に法事、葬式を行いましたところ、ご家族が涙して法事を大変喜んで頂きましたことにこちらが驚きました。難聴のご高齢者も大きな声で参列者と一緒に勤行に参加して頂き、「久しぶりに法事ができた」と喜んで頂きました。自宅法事では、モバイルを持ち込み勤行したり、本堂では、大型ディスプレイにつないで勤行します。このディスプレイが今後の課題です。そして、ユーチューブ動画「南福寺チャンネル」で本山版を配信しどこでもアクセスできるようにします。使



い勝手は悪いでしょうが、聴覚障がい者、難聴者の方々に喜ばれます。今後とも改良して参りますので、ご活用され、ご意見等頂きますれば幸甚です。

地域で実践するグリーンケア

非営利一般社団法人

大慈学苑 代表 玉置 妙 憂



そこで、我々
大慈学苑が、
二〇一九年よ
り展開してき
たスピリチュ

かつて、社会的問題として取り上げられた「老老介護」は時の流れとともにその状況が変化し、現在は「老老」の一方が他界したことによる老人の独居となり、そこに遺族としての悲嘆が加わって、深刻な高齢者のひきこもりを生じさせています。

高齢者のひきこもりは、筋力低下等の身体的影響ばかりにとどまらず、老人性鬱の発症から認知症を引き起こす原因にもなるため、引きこもっている高齢者を外に連れ出すことが喫緊の課題となっています。

地域住民の在宅療養を見守る地域包括ケアセンターは、これまでにもさまざまな企画を展開してこられたようですが、そういった喪失の悲しみが濃いが遺族の立場におられる方々には、通常の集まりではなかなか参加してもらえないという問題を抱えていました。



アルケア活動の経験を活かし協力させていただき、地域住民を対象としたグリーンケアの場、「わかち愛の会」を月に一度、無料で継続開催することとな



りました。
当初、参加者は二〜三名だった当会も、半年を経過する頃には、毎回十数名の参加者を得るようになりました。また、別の地域の住民の方々や地域包括センター様からのご要望もあり、開催地もどんどん増え続けております。

私ども大慈学苑のメンバーは、緊張の面持ちで参加された方が、心ゆくまで思いの丈を語り、同じ境遇の方の話に耳を傾けつつ静かな時間を過ごされた後、涙を流しながらも穏やかな笑顔で帰られていく後姿に、手を合わせさせていただき日々を送っております。微力ではございますが、これからも引き続き、地域で実践するグリーンケアに精進してまいります。このような私どもの活動を支えていただき、本当にありがとうございます。



その他の活動助成団体

●宗内における福祉講習会開催に対する助成

高野山真言宗寺族婦人会・北陸ブロック研修会
大阪寺族婦人会主催・福祉講習会

●障がい者福祉団体への活動助成

盲導犬育成事業
社会福祉法人 日本ライトハウス盲導犬訓練所
点字図書・録音図書の制作事業
社会福祉法人 日本ライトハウス情報文化センター

●ひきこもり対策活動への助成

NPO 法人 KHJ 全国ひきこもり家族会連合会

●難病者援助団体への活動助成

公益社団法人 難病の子どもとその家族へ夢を

●各種団体への活動助成

公益財団法人 日本ユニセフ協会
心の相談員ネットワーク
高野山「めざめ」の森づくり実行委員会
被災地 NGO 協働センター

高野山真言宗 第三回 平和研修会



り調査や戦災
地を巡る調査
の結果を、映
像や模型を用
いて、多くの

第三回目となる平和研修会が大阪府

茨木市の総持寺に於いて七月二十四、

二十五の両日に渡り開催されました。

本年度は、沖縄守備隊第三十二軍の司

令官牛島満中将の孫に当たる牛島貞満

氏（元東京都公立小学校教員）をお招

きし、初日は「牛島満と沖縄戦」、「第

三十二軍首里指令部壕の今と保存・公

開に向けて」の講演が行われました。

沖縄戦を経験された住民からの聞き取



講演する牛島貞満氏

人命が失われた戦争の背景と戦争遺跡
の保存の重要性を熱心に説明され、「戦
争を防ぐには、具体的な記録、証言に
基づく記憶の継承と歴史認識こそが平



指令部壕 1/150 の模型と講義風景

和への想像力に繋がる」という内容に、
二十五名の受講者は真剣に耳を傾けま
した。

「高野山真言宗と平和」

今後の平和への取り組みに向け

二日目は、本宗人権副委員長である
松本満師、高橋隆岱師の平和部会委員
を交えて本宗の戦時資料を基に当時の
教学に関する問題点について話し合わ
れました。経典に説かれた教理が戦争
遂行の目的に適した内容に解釈された
事実から、「戦争が何を変えてしまうの
か」を深く学び、歴史的認識を共有す
ることが平和の実現に繋がる事を知る
ことが出来るシンポジウムが行われま
した。



シンポジウムの風景（右から牛島氏、松本師、高橋師）

令和五年度 密教福祉研修会開催



路大震災及び
東日本震災
での体験談を
通して被害か
ら長い時間が

令和五年度密教福祉研修会が十一月

二日(木)、高野山教化研修道場(高野山大師教会本部)に於いて開催されました。本年度は「利濟衆生」をテーマに、最後の一人までをモットーに災害救援・復興支援に取り組まれている被災地NGO協働センター代表の頼政良太氏(関西大学人間福祉学部助教)、同センターまけないぞう事業部の増島智子氏をお招きし、ボランティア活動の実際と近年急増している水害への備え



講義風景

についてご講義をいただきました。第一部「被災地での心のケアについて」現場での事例を通して、阪神・淡

経った今でもなお残り続ける被災者の

心の傷との向きあい方と災害孤独死の問題について、「人と人との心のつながり」が心のケアにおいて重要であることを提唱され、被災者と支援者が互いにつながり支え合う一つの方法として同センターで行われている、「まけないぞう」協働事業に関する紹介が行われました。この活動は支援者から寄せられたタオルを避難所や仮設住宅へ郵送、子どもからお年寄りまで幅広い



右から頼政氏、増島氏

世代の方々が集まって針と糸でかわいいゾウの形に縫い全国へ販売すること、生きがい・仕事づくりにつながる事がで



水害時の床下講習会風景

きる運動であり、この活動が心の支えとなり救われた多くの感謝の声が紹介され、受講者たちは真剣な表情で耳を傾けられました。第二部「水害時の床下講習会」では近年多発する災害への備えとして、建物が水害を受けた時に利用することができる制度の紹介とボランティアを行う際の注意事項について実際の床下の骨組みも用意され、床板の外し方の体験が行われました。ユニークな指導方法や我先にと体験を希望する受講者の姿に時折笑い起こる場面もあり、明るく楽しい雰囲気の中で学びを深めることができる講習会となりました。



配信された講座映像

を振るう佐藤隆彦教授、上野和久教授、森崎雅好教授、土居夏樹教授、北川真寛准教授、テンジン・ウセル特任教授をお招きし、様々な方面からお大師様の教理と心の向き



撮影風景 (第6回 森崎 雅好教授)

令和五年度 高野山心の学び講座

「弘法大師に学ぶ心の整え方」 講義動画をオンデマンド配信

本年度は心の問題が多様化・深刻化する現代において、悩み苦しみを抱えた方々に寄り添う上での、自らの心の保ち方をお大師様の御教えより学ぶことをテーマに開講されました。昨年度に引き続きリモート形式での開催となった本講座は、高野山大学にて教鞭

を振るう佐藤隆彦教授、上野和久教授、森崎雅好教授、土居夏樹教授、北川真寛准教授、テンジン・ウセル特任教授をお招きし、様々な方面からお大師様の教理と心の向き

開催では、撮影された映像を編集し七月から十二月までの期間に講義動画を毎月一本ずつ、合計六回の動画が配信され、全国各地から受講ができ、配信期間中であれば好きな時間に何度でも視聴ができる本講座に五十二名の受講の申込みがあり、多くの方々が配信を視聴されました。

合い方についてご講義をいただきまして。オンデマンド配信での

みんなの便り事業

高野山真言宗においては本宗寺院の檀信徒を対象に、要介護者の方及び独居高齢者の方々に対する支援事業を昭和六十一年から実施しております。

この事業は当時深刻な社会問題となっていた在宅介護高齢者や独り暮らしの高齢者に対し何かお手伝いはできないかという想いから始まりました。令和五年度は左記の四つの品を用意し、一六一カ寺を通じて四、〇三〇名の方々に高野山から贈り物としてお届けいただきました。



ごあいさつ

社会課課長

味岡洋史



令和五年四月より社会人権局 社会

課へ配属となりました味岡洋史と申します。今後ともよろしくお願い申し上げます。社会人権局に異動し、もう少しで早一年が過ぎようとしています。歳を重ねるごとに一年が短く感じるようになっていくといわれますが、最近はそのことをすごく実感いたします。「人生は走馬灯の如し」などといわれたりもしますので、一日一日を大切に生きたいと思えます。

ところで、「走馬灯」とは影絵の仕掛けを施した回る紙灯籠のことですが、回転しながら次々と影絵が映る様子から、死の直前に次々と記憶が蘇る状態を表す言葉としても使われます。私は中学一年生の時に交通事故に遭った際に、走馬燈を見ました。横断歩道手前の道路を無理に横断しようとした時に、右折待ちの車が死角になり私を監視できなかった自動車にはねられた瞬

間、目の前がスローモーションになり、迫ってくるルーフに積

載された機材や、車の運転手、車内の荷物がゆっくりと確認できました。その後、突然目がくらむ程の光りが発せられたかと思うと、眼前に幼稚園入学式へ親と手をつなぎ向かっている自分の映像が見えました。そこからは、もう一気に過去の記憶が鮮明に流れてきました。幼稚園で先生に怒られていた記憶や、初めて自転車に乗れた時の喜び。小学校の時の思い出も。自分では、忘れてしまっていたことも、今までの人生の全てともいえる体験の断片が鮮明に順番に、そして一気に映像として流れていったあと、運転手の声で目を覚ましました。幸い命に別状はなく、後遺症も残りませんでした。走馬燈の中では、あの時にこうしておけば、もっと前からこうしておけば、この先の未来を変えることができたのではと後悔したとしても、当然未来が変わることはありませんでした。

さて、昨年を振り返りますと、ロシアによるウクライナへの軍事侵攻は激しさを増し、またイスラエルとイスラム組織ハマスが実効支配するパレスチナ自治区ガザ地区との軍事衝突が始まり、生まれたばかりの幼子を含む多数の方の尊い命が理不尽に奪われました。一方で、昨年は弘法大師空海さまのご誕生なされて一二〇〇年記念正當年として、「いのちよ輝け 大師のみこころと共に」のスローガンのもと記念法会を執り行い、お大師さまのご誕生を祝うとともに、現代を生きる子供たちが元気で健やかに育つことを願いました。一刻も早く各地の紛争が終結し、平和な世界となり、その先も未来を担う子どもたちが安心して暮らせる世界であり続けることを願ってやみません。本山に奉職させていただき、社会課に所属していることの意義を見いだし、どうあがいても未来が変わることがない走馬燈の中で後悔することがないように、この社会のために今できる取り組みに全力を注ぎたいと思います。

令和6年能登半島地震により被災された皆様に衷心よりお見舞い申し上げます。

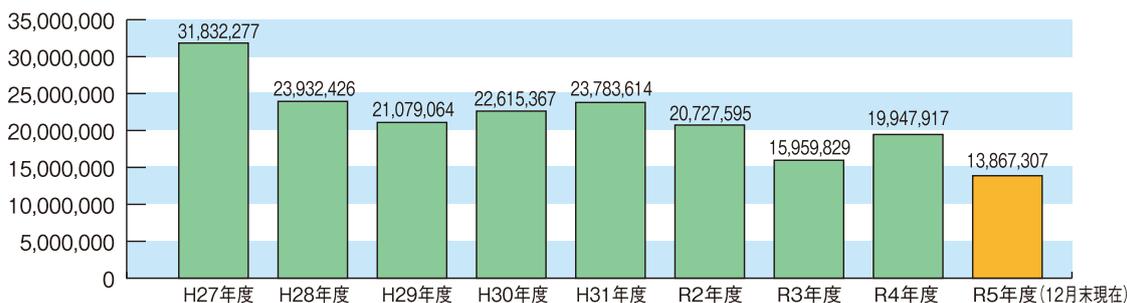
御宝号念誦運動 のお願い



御宝号念誦運動とは、心静かに手を合わせ、お大師さまのお徳を表す御宝号『南無大師遍照金剛』をお唱えし、お大師さまと共に、平和な社会の実現に心を向ける信仰運動です。

お大師さまは、「濟世利人（世を濟い人々に利益をもたらす）」を誓いになり、高野山奥之院で永遠に祈り続けてくださっています。私たちもお大師さまと共に、一心に御宝号をお唱えし、全ての人々が幸せな生活を送れるよう祈念しましょう。

御宝号念誦運動寄金推移表



福祉基金事業表

皆さまから寄せられた御宝号念誦運動寄金は、高野山真言宗社会福祉基金として様々な福祉活動に役立てられています。

御宝号念誦運動寄金

高野山真言宗社会福祉基金

社会福祉事業

宗団社会福祉事業の推進

こころの便り事業（高齢檀信徒支援）
※ひきこもり対策事業

人材育成

高野山 心の学び講座の開催
密教福祉研修会の開催

宗内外における社会福祉活動への援助

寺院および関係機関 ならびに宗外団体への活動助成
盲導犬育成事業への援助 食糧等支援事業への援助

海外援助

ユニセフ協会 など

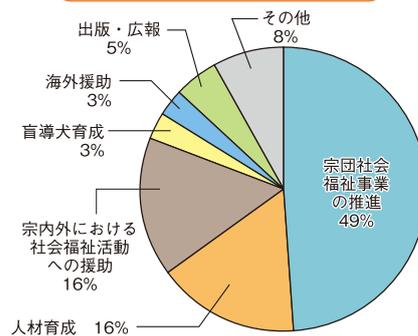
出版・広報

ふれあい発行
災害復興支援

その他

御宝号念誦運動の啓発

社会福祉基金の使われ方



ご浄財は、お近くの高野山真言宗の寺院にお持ちいただくか、直接御宝号念誦運動本部へご送金願います。

●ゆうちょ銀行

振替口座 00940-2-9941
高野山真言宗御宝号念誦運動本部

●他の金融機関からの振込は

銀行名：ゆうちょ銀行 金融機関コード：9900
 店番：099 預金種目：当座
 店名：〇九九店 口座番号：0009941

〒648-0294 和歌山県伊都郡高野町高野山132 高野山真言宗 社会人権局 社会課
 電話 /0736-56-2013 FAX/0736-56-2226 E-mail/shakaika@koyasan.or.jp
 金剛峯寺ホームページ /https://www.koyasan.or.jp

印刷 / 株式会社ウイング